

③本年度の大会において「里山の昆虫の過去・現在・未来」と題する小集会を本委員会が主催したが、来年度の大会では「都市近郊の昆虫」と題するシンポジウムを計画した。

④これまで収集してきた昆虫類の種と多様性の永続的保護のための保護地域についての資料を、「昆虫類の多様性保護のための重要地域第1集」として出版することを決定し、評議員会に提案した。この出版計画は1992年度より進められてきたが、現在全国200ヶ所以上の地域の資料が各地区自然保護委員を通じて集められたので、国や地方自治体などによる保護体制の整っていない地域から順次公表することになり、その第1集を出版することを決定した。出版形態は「広告を出し、会員内外に予約販売する」ことにし、明年8月頃を目標に編集作業に入ることになった。（委員長、巢瀬 司）

日本の昆虫編集委員会報告

10月2日（14:30～16:00）九州大学六本松地区院生棟105教室において、森本 桂（委員長）、紙谷 聡志、宮武 頼夫、野村 周平の各委員が出席して開催された。本委員会は会誌64(2)、1966に規定が掲載されたが、任期の運用日が記載されなかったので、同年3月26日の山口大会での評議員会承認をもって運用日とすること。よって、現委員会は本年で任期が終わり、明年度が改選年に当るので、新編集委員会を編成する必要があることが報告された。今後の予定として、本委員会で発行計画を検討した結果、明年度の8月頃に最初の2冊の発行が予定されている。（委員長、森本 桂）

将来問題検討委員会報告

10月2日（14:30～17:00）九州大学六本松地区本館第1会議室において、山根正気（委員長）、青木重幸、石井 実、嵐 洪、田中誠二、友国雅章、内藤親彦、中筋房夫、中西明德（編集委員長）、上宮健吉（庶務幹事）、緒方一夫（会計幹事）が出席して開催された。本委員会は「学会の在り方を討議し、機関誌を含めてより魅力的な学会にする方策を立てる」という大きな課題を担っている。これまでの数回の通信による各委員の意見交換をふまえ、今回の最初の委員会に向けて次の4つのテーマについて各委員が分担して具体的な検討を行ってきた。①学会会計の改善（青木、緒方）、②会誌の改革（中西、嵐、石井、加藤）、③学会賞（中筋、内藤、田中）、④学会の性格と社会的活動（田中、上宮、緒方）。これらの報告に基づき、また早急な学会改革の実現を強く求める正木編集委員の提案からも、本委員会では当面の緊急課題として次の3点（会誌の改革、財政の健全化、学会賞）を取り上げ、集中して討議した。

その結果、次のような結論をえてそれを評議員会に報告した。

1) 会誌の改革：英文誌と和文誌に分割する。英文誌はタイトルを“Entomological Science”として第1巻から始め、年4回発行する。これには埋め草的な短報を廃止しすべての論文の体裁を統一する。版のサイズを国際版とし、表紙のデザインも一新する。和文

誌は「昆虫」“Japanese Journal of Entomology”を踏襲し、巻号もそのまま継承する。内容は総合的なものとし、和文原著論文、総説、短報、英文誌の抄録に加えて、書評、大会案内、会記などのニュースレター的なものを掲載し、少なくとも年に2回は発行する。

2) 財政の健全化：学会事務センターと学会の会計年度が一致していないことから生じる混乱を防ぐため、学会事務センターからは適宜情報をえるよう努力する。現在の複雑な会計帳簿を明確化するため貸借対照表の適用などを検討し、本委員会の任期中にその結論を学会長に報告する。

3) 学会賞：「若手・中堅の会員の業績の顕彰を念頭においたなんらかの賞の創設を考えるべきである」とするワーキンググループの中間報告を評議員会に報告する。賞の具体的な内容はワーキンググループで引き続き討議したのち、本委員会の任期中に会長に報告する。

(委員長, 山根正気)

通信評議員会投票結果

「学会誌の改革」における会則第3条の変更(会誌の誌名)を伴う改革の実施については、“将来問題検討委員会の下にワーキンググループを設置し、具体的な会誌の改革の詳細を検討し、ここで早急に結論を出し、評議員会(書面)の承認を受ける”, という総会での決定事項に従って、将来問題検討委員会の第一次答申内容の緊急の課題に当る「改革の骨子」に対する可否投票を評議員にお願いし、1997年11月25日に投票を締切り、集計した。その結果は以下の通りである。なお、回答は評議員総数30名中の29名であった(回収率96.6%)

投票結果

将来問題検討委員会の答申(第一次報告)の「改革の骨子」

(1) 会誌の改革について, (2) 財政について, (3) 学会賞について

以上の答申内容の実施について, 了承する(27名), 反対する(1名), 白紙(1名)
以上の結果, 将来問題検討委員会の第一次答申は過半数をもって承認された。